

◆授業のポイント◆

- ・ 到達目標の明確化と指導方法・練習方法の工夫・改善
- ・ 表現活動において、習得した知識や技能を活用し、表現力を高める工夫

## 音楽科学習指導案

学級 2年3組 (男子22名女子19名 計41名)

場所 第2音楽室 (1年棟4階)

授業者 教諭 永井ひろみ

- 1 題材 曲の構成や曲想の変化を感じ取って歌おう  
教材 「夢の世界を」 芙龍明子 作詞 ・ 橋本祥路 作曲

### 2 題材について

- (1) 歌を歌うことは、人間の表現活動の根源的なもののひとつである。人は何かを伝えたいことがあって声を出す。情熱や感情の動きが声になって外に出され、それが時として「歌」という形で表現される。また、歌を歌うことは自らの身体を表現媒体することから、自己の存在感を認識しやすいものでもある。中学の音楽においては、歌唱などの表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽活動の基礎的な能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深め、豊かな情操を養うことを目標としている。

本題材は、学習指導要領「第2学年及び第3学年A表現(1)ーア 歌詞の内容や曲想を味わい、曲にふさわしい表現を工夫して歌うこと。イ 曲種に応じた発声や言葉の特性を理解して、それらを生かして歌うこと。ウ 声部の役割と全体の響きとのかかわりを理解して、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。」に関する内容である。

本教材「夢の世界を」は、芙龍明子作詞・橋本祥路作曲、ハ長調、8分の6拍子、A(a a') B(b b')の二部形式、歌の前半は斉唱、後半が混声三部合唱の形の曲である。

音楽を形づくっている要素(音色、リズム、速度、旋律、テクスチュア、強弱、形式、構成など)や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じさせたり、音楽を形づくっている要素とそれらの働きとを表す用語や記号などについて、音楽活動を通して理解させたりすることが大事である。また、それらと歌詞のかかわりを感じ取らせながら楽曲にあった表現を工夫させ、自らの考えで工夫し、自分の意図を言葉で表し、それを音によって表現する楽しさを味わわせることをねらいとし、本題材を設定した。

- (2) 生徒の実態(アンケート対象:2年3組 男子22名 女子19名 計41名 回答)  
今回の学習に取り組むにあたって、前調査を実施した。

1. 合唱活動は好きですか。

好き(13人) どちらかといえば好き(19人) どちらかといえば嫌い(8人) 嫌い(1人)

2. [1]で答えた理由

○「好き」「どちらかといえば好き」と答えた人

- ・ みんなで協力して合唱するのが楽しい・歌うのが好きだから・合唱の部分がきれいだから。
- ・ みんなときれいにハーモニーがつけられるところが好きだから・大きな声が出せるから。
- ・ みんなと1つになる感じ(みんなで作り上げる)が実感できるから。
- ・ 合唱すると気持ちがすっきりするから・合唱の部分がきれいにできるとうれいから。

●「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と答えた人

- ・ 歌うのが苦手
- ・ 人前で歌うのが苦手
- ・ 合わせるのが苦手

3. 合唱で難しいと感じる点を挙げてください。

- ・ ハーモニー
- ・ 正しくリズムをとること
- ・ テンポを正しくとること
- ・ うまく声が出ない
- ・ 他のパートにつられる
- ・ 強弱をつける

・合わせること                      ・他のパートとのバランス                      ・音程をとること

4. 歌うとき、どんなことに気をつけていますか。(複数回答)

- ・音程 (34名)                      ・リズム(28名) ・速度 (26名)                      ・強弱 (21名)                      ・姿勢(16名) ・響き (15名)
- ・響き (15名)                      ・呼吸法(11名) 歌詞 (9名)                      ・拍子 (9名)                      ・響き (8名)                      ・口形 (5名)
- ・作者の想い (4名)                      ・表情 (4名)

アンケートの結果から、歌うこと(合唱活動)は「好き」あるいは「どちらかといえば好き」と答えた生徒は76%を占めている。理由は「みんなと協力して合唱するのが楽しい」など、仲間と協力して歌を創り上げる音楽活動に喜びを感じている様子が見受けられる。しかし、苦手意識のある生徒が合唱を楽しめない面も見受けられる。音取りやハーモニー練習を丁寧に行うことで、生徒の自信と意欲を育て、授業の中で合唱する喜びを多く経験させられるよう配慮したい。

生徒が歌う時に気を付けていることは「音程・リズム・速度・強弱」の回答が多い。楽譜に書かれている基本的な要素を意識して歌唱活動に取り組んでいることがわかる。一方、「作者の想い・歌詞」については意識が低いので、この題材を通して「作者の想い・歌詞」からも表現の工夫ができることを学ばせたい。

本校は、楽曲から知覚・感受したイメージを言葉で表す際に、「表現のための虎の巻」を用い、参考にすることで生徒の語彙を豊かにし、イメージを共有するための手立てをとっている。また、言葉で表したイメージを、音に表す際に具体的な「譬え」を参考に取り組みせ、音の追究を行っている。

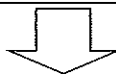
3 習得・活用・探求の授業の関連

習得している基礎的・基本的な知識や技能

- ・ 曲の構成や曲想の変化に関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組める。
- ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受ける。

知識や技能が活用された姿(生徒像)

- ・ 曲の構成や曲想の変化を感じ取って、どのように歌うかについて思いや意図をもって、曲にふさわしい表現を工夫することができる。
- ・ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ受し、表現の工夫を行っている。
- ・ 楽譜や演奏から知覚・感受したことを踏まえて、曲にふさわしい表現の工夫を述べることができる。



探求の授業において活かすことができると考えられる力

- ・ 曲の構成や曲想の変化を生かすための表現(発声、拍子感やフレーズを生かした歌い方、強弱記号の歌唱表現など)を追求する力。
- ・ 思いや意図を表現するために、要素の働かせ方を試行錯誤し、曲にふさわしい表現の工夫を見いだして表現できる力。

4 題材の目標

- (1) 曲の構成や曲想の変化に関心を持ち、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組むことができる。
- (2) 斉唱や混声三部合唱の音の重なりの違いや二部形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、曲の構成や曲想の変化を感じ取って曲にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかにつ

いて思いや意図をもつことができる。

- (3) 曲の構成や曲想の変化を生かした曲にふさわしい表現をするために、必要な発声、8分の6拍子やフレーズを生かした歌い方、強弱記号を生かした歌唱表現などの技能を身に付けて歌うことができる。

### 5 指導計画(全4時間)・[単位時間における評価規準]

時間	主な学習活動	単位時間における評価規準		
		ア 音楽への関心 ・意欲・態度	イ 音楽表現の 創意工夫	ウ 音楽表現の 技能
1	・ 「夢の世界を」の歌詞の内容、曲想などに関心をもつ。	・ 歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいに関心をもっている。		
2	・ 音楽を形づくっている要素を知覚・感受し、「夢の世界を」を歌唱する。		・ 「夢の世界を」の拍子、速度、強弱、合唱の音の重なり、曲の構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じている。	
3 (本時)	・ 前時の学習を生かして、「夢の世界を」の音楽表現を創意工夫する。		・ 「夢の世界を」の拍子、速度、強弱、合唱の音の重なり、曲の構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、曲の表情や味わいを感じ取って曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	
4	・ 曲にふさわしい表現で主体的に「夢の世界を」を合唱する。 ・ 題材全体の学習の振り返りをする。	・ 「夢の世界を」の歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを生かし、曲にふさわしい音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。		・ 「夢の世界を」の歌詞が表す情景や心情、曲の表情や味わいを生かした、曲にふさわしい音楽表現をするために必要な発声、発音、呼吸法などの技法を身に付けて歌っている。

### 6 本時の実際(3/4)

- (1) 目標 曲の表情や味わいを感じ取って、イメージしたものを歌詞・強弱・形式・速度などを生かして歌うことができる。

#### (2) 授業づくりの視点

ア 到達目標の明確化と指導方法・練習方法の工夫・改善

表現しようとするイメージや思いを、到達目標として設定し、主体的に取り組めるようにするために、「譬え」を参考に、イメージしたものが音として表現できる工夫をさせる。

イ 表現活動において、習得した知識や技能を活用し、表現力を高める工夫

曲の表情や味わいを感じ取って、曲にふさわしい音楽表現を追求しながら、意見交換を行うことで表現力を高めさせる。

(3) 展開

過程	時間形態	主な学習活動	○ 指導上の留意点 ◎ 評価 ※授業のポイントの工夫
導入	6分 一斉	1 前時の学習内容を振り返り、「夢の世界を」を合唱する。  2 本時の目標を確認する。 曲から感じたイメージを生かすためには、どのような表現の工夫をすればよいだろうか。	○ 8分の6拍子、斉唱と混声三部合唱、前半と後半の旋律の違い（伴奏の違い）から気付いたことを確認させる。 ◎ 前時の学習を振り返り、曲の構成や曲想の変化から感じ取った曲のイメージを、思い出しながら歌おうとしている  ○ 本時の目標と学習の流れについて提示し、見通しをもたせる。
	3分 一斉	3 教師のイメージを生かした範唱を聴き、表現の工夫で気付いたことを発表する。	○ イメージすることへの意欲を高めさせる。 ※ 表現しようとするイメージや思いを、到達目標として設定し、主体的に取り組めるようにする。 ◎ どのような表現の工夫がされていたかを気付くことができる。
展開	6分 一斉	4 歌詞を読み、わいてくる自分のイメージについて考える。  5 自分のイメージを生かすために、音楽の何を工夫するかを考える。	○ 「さあ、出かけよう。思い出のあふれる道を駆け抜け。」などの言葉から、これまでの経験等を想像させることで、自分のイメージを把握させる。  ○ イメージと音楽の関連に気付かせ、工夫することを楽譜に記入させる。
	15分 班	6 グループごとに、後半の表現の工夫を話し合い、練習する。	○ 自分のイメージを強弱と関連させる。 ○ 歌詞や速さ・ハーモニーの作り方・b b' の表現の工夫など多面的に自分のイメージと結びつけて具体的に表現させる。 ※ 表現のための虎の巻」を用いて、表現したいイメージを言葉で説明し、「譬え」を参考に、イメージしたものが、音として表現できるよう工夫する。  ◎ 協力して意欲的に練習に取り組むことができる。 ◎ 工夫するところを意識して練習することができる。
	15分 班	7 各グループの練習内容を説明し、発表する。	○ 取り組んだことを生かして歌うように意識させる。 ◎ 思いや意図をもって歌っている。 ○ 各グループが表現の工夫した点に気を付けさせ、自分たちの工夫との違いや共通点などを見つけながら聴かせる。 ◎ 表現の工夫ができているか確認している。
終末	5分 一斉 個人	8 本時の振り返りと次時の目標を設定する。 イメージしたものを表現するには、歌詞・強弱・形式・速度などを生かして歌うことが大切である。	○ イメージを曲に関連させるためには、音楽の要素を生かすことが大事であることに、気付かせる。
		9 次時の予告を聞く。	○ 生徒の活動や変容を認め、次時の学習につなげる。

(4) 評価 曲の表情や味わいを感じ取って、イメージしたものを歌詞・強弱・形式・速度などを生かして歌うことができたか。